

## 第2 実践事例

### 事例1 探究的な学習【課題の設定】

生徒が学ぶ必要性を感じて、主体的に探究課題を設定していく指導の事例

- 学年 第3学年
- 探究課題 地域の特性を活かしたよりよいまちづくりと暮らしを支える人々（まちづくり）
- 主な事例のポイント ※それぞれの実践例にて紹介
  - ①教師が選択肢を設けずに、生徒の興味・関心に基づいた主体的な「課題の設定」を行う。
  - ②複数の立場のゲストティーチャーによる座談会で、視野を広げる「課題の設定」を行う。
  - ③ルーブリック表による学習評価の確認で、今後の活動に見通しをもつ「課題の設定」を行う。

#### 1 単元名 上尾をプロデュース！

#### 2 単元の目標

「持続可能なまちづくり」の視点から、自分が住んでいる地域の特徴や現状を調べる活動を通して、過ごしやすいまちにしていくためには課題や多様な立場の意見があることを理解し、まちづくりに関わる人との交流や市政の政策評価を行って、課題解決のために実現可能性がある提案を考えるとともに、自治体や関係機関に発信できる提案書を作成し、地域の発展や活性化に参画しようとする。

#### 3 生徒の実態（略）

#### 4 教材について

探究課題は「地域の特性を活かしたよりよいまちづくりと暮らしを支える人々」である。

本実践では、自分たちが住むまちの現状や課題を知り、政策評価やアクションリサーチを通して具体的な提案を作成して実際に市や関係機関に向けて発信をしていく。地域社会の課題に目を向けて自ら気になった分野について探究活動を行うことで、よりよいまちづくりに参画する一人の市民として必要な資質・能力を身に付け、持続可能な社会の担い手を育むことを目的とする。

18歳選挙権が現実のものとなったが、若者の投票率は依然として低く「社会参画意識」の低さが課題として挙げられている。「持続可能な社会」を築いて継続していくためには、身近な社会で起きている課題を自分事として捉えることが不可欠である。地域の活性化を担う一市民として自己の生き方を考え、多様な他者と協働してよりよい社会を切り開いていく力を身に付けるために本単元を設定した。

本実践ではまず、市の広報誌を読み、自分が気になったことや自分に関わりのあるところにマーカーで印をつけて発表するところから活動をはじめ。また、自分の住む街の良いところ（評価点）と良くないところ（課題点）を挙げて意見交換するワークショップも行う。気になった部分のジャンルを共有してまとめていくことで生徒たちが興味・関心を抱いた分野が見えてくる。それをもとに座談会を開き、複数の立場の市民と話し合う機会を設ける。そこで生まれた疑問や課題意識、良い点をさらに良いものにしていく視点から、クラスを越えてグルーピングを行って学年内で学習班を作成する。それぞれの学習班で調べ学習をはじめ、自分たちの探究していきたい学習テーマを絞っていく。この様にして丁寧に「課題設定」を行うことで、生徒が学ぶ必要性を感じ、主体的にテーマを深掘りしていくための意欲が高まることが期待できる。

その後、校外に出て市民の話聞くアクションリサーチ、市の出している予算案や会計報告、事業計画などの資料を読み込んで実際の市民の声や自分たちの実感と比較する政策評価、専門家や市の職員と意見交換を行うオンラインミーティング等の活動を通して課題に対する探究を深めていく。中間発表では市政に対する質問を作成し、市の担当課職員に説明・回答を求める。「まとめ・表現」の場面ではグループの最終的な提案書を作成し、市や関係機関に送付する。関係各所からのフィードバックをもらうことで生徒は実際の社会との関わりを実感する。社会への参画は「地域や実社会をよりよくする参加」であることを意識したゴール設定を行っている。外部の関係機関に協力を依頼する活動が多くなるため、早期の段階で連携を図りながら進めていきたい。

## 5 単元の評価規準


知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 地域にはその特徴に合わせた様々な課題があり、それぞれの立場の意見があることを理解している。</p> <p>② 課題の本質に迫るために、適切な調査方法を考え、実施している。</p> <p>③ 地域の課題と、自分の生活との関わりについての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>① まちづくりの視点から地域の特徴を多面的に見て課題を設定し、その解決に向けた見直しをもっている。</p> <p>② 地域の現状について、目的やテーマに応じて必要な情報を幅広く収集している。</p> <p>③ 収集した情報を他地域と比較したり、クリティカルな見方で見直したりして、多様な情報を取捨選択して整理・分析している。</p> <p>④ 自身の調べたことや考えたことを、結論に対する根拠を明らかにして分かりやすく提案している。</p>	<p>① 自らの興味・関心に基づいて設定したテーマの価値に気付き、意欲的・主体的に活動に取り組もうとしている。</p> <p>② 仲間やゲストティーチャー、地域の人の意見を積極的に取り入れながら、課題解決に協働して取り組もうとしている。</p> <p>③ 課題解決のために積極的に提案内容を考え、地域の発展や活性化に参画しようとしている。</p>

## 6 単元の指導計画と評価計画（64 時間扱い）

※ 「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程	○学習活動・生徒の思考	・指導上の留意点 ○評価（評価方法）
課題	<p>○オリエンテーションを行う。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の総合的な学習の時間の進め方が分かった。</li> <li>・まちづくりにはどんな視点があるかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間のねらいや進め方について確認し、学習に見直しをもつことができるようにする。</li> <li>・まちづくりに関心がもてるようにする。</li> </ul>
課題	<p><b>課題① まちづくりについて考えよう</b></p> <p>○まちづくりワークショップを行う。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイで色々な意見の人がいることを知った。</li> <li>・健康、福祉、医療、子育て、環境、産業などまちづくりには様々な視点があることが分かった。</li> <li>・そういえば、家の近くに危ない交差点があったので信号機を付けてほしい。</li> <li>・自分たちが住んでいる地域以外のまちづくりはどうなっているのだろう。</li> </ul>	<p>事例のポイント① 実践例 1-1 を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が関心のある身近な地域の現状から地域の課題に気付くことができるようにする。</li> <li>・こちらから視点を選択肢としてあらかじめ与えず、生徒の課題意識から発信できるようにサポートする。</li> <li>・課題意識が改善に向けた意欲喚起に繋がられるようにする。</li> </ul> <p>○<b>思・判・表</b>①（発言・ワークシート）</p>
情報	<p>○古都京都・奈良のまちづくりから他地域の特性を学ぶ。(10)</p> <p>例えば、「伝統の継承と新しいサブカルチャーとの融合」、「日本の慣習とインバウンド」等、自分が現地で確認したいことについて学習を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他地域のまちづくりの特性を実体験できる機会と捉え、生徒が自ら決めたテーマで現地調査ができるよう学習を進める。</li> <li>・行事の準備として、コース作りや訪問先調べを行うのではなく、まちづくりのアクションリサーチ・レポート作成のための時間にする。</li> </ul>
情報整理	<p>○修学旅行でインタビューを行う。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都・奈良が現状を維持できている背景には多くの人に関わっていることが分かった。</li> <li>・京都・奈良で暮らす人々はまちの持続可能性を高めていくためにどんな工夫をしているのだろう。街並みから見えてくるところはあるのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都・奈良と私たちの住むまちとはまちづくりの視点も目的も異なるため、単純に優劣を比較した結論にならないように働きかける。</li> <li>・自分の設定したテーマに沿って関係者にインタビューを行い、レポートにまとめられるようにする。</li> </ul>

表現	<p>○SDGs フォトコンテストを行う。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班別行動中にまちづくりの視点で SDGs に関わりの深い写真を撮ろう。</li> <li>・これももしかしたら SDGs だと言えるかもしれない。</li> </ul> <p>○京都・奈良のまちづくりの持続可能性についてレポートを作成する。(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューの回答と現地を見た現状を整理してわかりやすくまとめよう。</li> <li>・私たちの地元では、このような課題はどのように捉えられているのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長賞、環境部門賞などコンテスト形式にして生徒の意欲喚起を行う。</li> <li>・訪問地を回りながら、SDGs に関連性が深いと感じた場面をいつでも切り取って記録できるような仕組みにする。</li> <li>・レポートでは、自ら立てた疑問の解消ができたか、予測と現実はどうだったか、修学旅行の現地調査・インタビューの結果から考察をまとめるようにする。</li> </ul> <p>○<b>知・技</b>① (インタビュー内容)</p> <p>○<b>思・判・表</b>② (レポート)</p>
<p>課題</p> <p>情報整理</p> <p>表現</p>	<p><b>課題② 上尾のことをもっと知ろう</b></p> <p>○市の広報誌「あげお」を読んで気になるところを共有する。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌にはこんなにも多様な情報が載っていることを知った。</li> <li>・家族の趣味についての記事だ。</li> <li>・自分の家の近くのことだ。まちには色々なよいところや課題があるのだな。</li> </ul> <p>○私たちの住むまちの評価点と課題点を挙げる。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住みやすくてよいと思うところもあれば、もうちょっとこうならよいのにも思うところもある。</li> <li>・詳しいことは上尾に住んでいる人に聞いてみるほうがよいな。</li> </ul> <p>○座談会に向けて、ゲストティーチャーに聞きたいこと、確認したいことをまとめる。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の先生の立場からは、この問題をどう考えているのだろうか。</li> </ul> <p>○複数のゲストティーチャーを同時に招いて、座談会を行う。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ市民でも、立場によって意見が異なることが分かった。</li> <li>・課題は1つだけの問題ではなく、複数の状況が絡み合っていて、一方的な考えだけで解決することは難しいことを知った。</li> <li>・対話形式だと学びが深まると感じる。</li> <li>・このような市民の声に市としてどのような政策を立てて対応しているのだろう。</li> </ul>	<p><b>事例のポイント① 実践例1-2を参照</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3カ月分の市の広報誌 (PDFも可) を持ちよって、気になったところにマーカーを引いてくる宿題からグループ内で発表、意見交換ができるようにする。</li> <li>・気になったことがどんな視点 (分野) のことか考え、似たような疑問を持った友人の意見にも耳を傾けるようにする。</li> </ul> <p>・私たちの住むまちの「よいなと思うところ」、「もっと○○だとよいなと思うところ」、「他の人に紹介するとしたら」、「もっと知りたいこと」の4つの視点でワークシートに記入して、グループで意見交換ができるようにする。</p> <p>○<b>態</b>① (発言・ワークシート)</p> <p>・市民として実際に困っていることや本市の特徴などについて、複数の立場の方に向けて質問を作成できるようにする。</p> <p><b>事例のポイント② 実践例2を参照</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師が伝達をする講義形式ではなく、車座になって座談会形式で質疑応答・意見交換を行うことをゲストティーチャーに事前に伝えて打ち合わせを行っておく。また、事前に質問内容は送付しておく。</li> <li>・繰り返しや追質問を通して対話的で深い学びになるように配慮する。</li> </ul> <p>編 P174 指導計画作成の留意事項 (2)</p> <p>○<b>知・技</b>① (質問内容)</p> <p>○<b>態</b>② (発言・ワークシート)</p>

	<p style="text-align: center;"><b>課題③ 上尾をよりよくするための提案をしよう</b></p> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○提案書の完成をイメージできるようにルーブリック表を理解する。(1)</li> <li>・提案書の完成イメージとこの先の見通しが持てた。</li> <li>・グループテーマが具体的になったので、必要な資料を集めよう。</li> </ul> <p><b>情報整理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市の政策に関する資料を読み込んで政策評価を行う。(10)</li> <li>・分担して多くの資料に目を通そう。</li> <li>・市の方針としては、どの方向に進もうとしているのだろうか。</li> <li>・資料に書いてあるとおりに計画は進んでいるのだろうか。</li> <li>・市民はこの政策について実際どう感じているのか気になる。</li> <li>○アクションリサーチを行う。(2)</li> <li>・政策評価で調べている内容と実際の市民の声の差が分かった。</li> <li>・市民がありがたいと感じている点や困っていると感じている点があることが分かったが市にその声は届いているのか。</li> </ul> <p><b>整理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市の担当者に対する質問を考える。(4)</li> <li>・行政の立場としてこの問題をどのように捉えているのだろうか。</li> <li>・予算ありきなので優先順位として仕方ない部分もあるのだろうか。</li> </ul> <p><b>表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市の担当者をゲストティーチャーに招いて質問をする。(2)</li> <li>・自分たちの疑問や指摘に対して、職員の方はどのように答えてくれるのだろうか。</li> <li>○提案書を作成する。(10)</li> <li>・このアイデアが実現できたら、きっと市民の利益になるはずだろう。</li> <li>・専門の職員の方に見てもらったときに、自分たちの案にどれほど実現可能性があるかと判断してもらえるのか楽しみだ。</li> <li>・必要な情報と根拠を整理してわかりやすい提案にしたい。</li> </ul> <p style="text-align: center;">編 P174 指導計画作成の留意事項(4)</p> <p><b>整理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○提案書に対する回答を読み共有する。(2)</li> <li>・専門的な視点で見ると、課題解決のためには様々な障壁があることが分かった。</li> <li>・例えよい案であったとしても、行政の手続きでは予算の優先順位で決まる側面があることが分かった。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>事例のポイント③ 実践例3を参照</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の観点について、生徒から質問を聞いたり、意見を聞いたりして共に評価規準を作る意識を持てるようにする。</li> <li>・具体的なサンプルを生徒に見せて、それぞれの観点の意味を示すようにする。</li> <li>・グループテーマを絞っていく。</li> <li>・批判的な視点を持って資料を読むことができるようにする。</li> <li>・利用価値のある情報を整理して順序良く組み立てられるようにする。</li> <li>・一人一台のICT端末を検索等に活用し、提案書はICT端末で作成する。</li> <li>○<b>思・判・表</b>③ (資料・ワークシート)</li> <li>○<b>態</b>② (発言・グループワーク)</li> <li>・積極的に校外に出て、市民から情報収集ができるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="909 918 1388 1131" style="text-align: center;">  <p>子育て班は児童館でインタビューを実施</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市政の批判にならないように、一人の市民としてよりよいまちづくりのための意見であることを伝えられるようにする。</li> <li>・市民の声や政策評価をもとに、核心を突いた質問ができるようにする。</li> <li>○<b>知・技</b>② (質問内容)</li> <li>・夢や空想ではなく事業計画や予算案など多くの市政資料を根拠とした実現可能性のある具体的な提案になるようにする。</li> <li>・他のグループに情報を聞きに行ったり、協働して案を出したり、教室内で連携が出てくることも期待できる。</li> <li>○<b>知・技</b>① (提案書)</li> <li>○<b>思・判・表</b>④ (提案書)</li> <li>○<b>態</b>③ (提案書)</li> <li>・一市民として、この単元を通して知ったことや感じたことを、今後の生活に生かしていきたいと感じられるようにする。</li> <li>○<b>知・技</b>③ (考察・感想)</li> </ul>
--	--	---

## 7 実践例

### 【実践例1】教師が選択肢を設けずに、生徒の興味・関心に基づいた主体的な「課題の設定」 概要・ねらい

探究活動へのモチベーションを高めて維持していくためには、生徒が学ぶ必要性を感じて、自らが「面白い」「学習する価値がある」と思える課題にたどり着く過程が必要になる。生徒を少人数に分けたり、コース・テーマを設定したりする際にあらかじめ教師が選択肢を設けがちであるが、それは生徒自身の探究心によるものではなく、教師側の学ばせたい項目であったり、人数調整であったりする意味合いが大きくなる。本実践では、本校全教職員が共通理解のもと、生徒の思考や視野が広がるような活動から始めて、生徒発信の主体的な課題設定ができるように工夫した。

#### 1-1 まちづくりワークショップから生徒の思考を広げる

住民参加型のまちづくりワークショップを疑似体験する活動をグループで行った。一人一人に役割カードを配り、そのカードの人になりきってロールプレイを行うもので、それぞれ「自己紹介」、「悩んでいること」、「まちの問題として気になっていること」を挙げて議論を行った。また、「改善したいまちの課題」と題した模造紙に意見を書き込みながら話し合い、最後にグループの議論内容を発表した。

**役割カードの例** (出典:「18歳選挙権と市民教育ハンドブック」2016 開発教育協会 DEAR)

- ・母親の介護をしている主婦 50 歳女性
- ・在住外国人 20 歳女性
- ・年金受給者 80 歳女性
- ・商店街の美容院店長 32 歳男性
- ・看護の専門学生 21 歳女性
- ・小学校 3 年生 9 歳男性

今まで自分には考えもしなかった分野の話題が挙がっていて、なるほどなって思った。

実際に自分たちの住む上尾ではどうなっているのだろう。



まちづくりワークショップの様子

最近コンビニエンスストアが増えて便利になったと感じてはいたけれど、夜間若者が集まって騒がしくて困っている人がいるなんて想像もできなかった。

友だちが駅で自転車を盗られたと言っていたけれど、上尾市の防犯対策はどうなっているのだろう。

#### 1-2 広報誌の読み込みから生徒の興味・関心を引き出す

3カ月分の市の広報誌を読んで、気になった部分にマーカーを引いてくる家庭学習の課題を出した。その後、生徒がその広報誌を持ちよってグループで発表する授業を行った。その際、生徒から挙げたトピックに対して3つのキーワードを出してグルーピングをした。

##### 生徒がマーカーを引いたトピックの例

- ・市内のコンビニエンスストアにAED設置  
(救命に使えるので、知っておくべき情報だと思った。)
- ・公立保育所の公開保育・見学会実施  
(保育所を誰でも見学できることを知らなかった。)
- ・新ごみ処理施設の用地募集  
(隣の伊奈町とともに建設する計画をはじめて知った。)

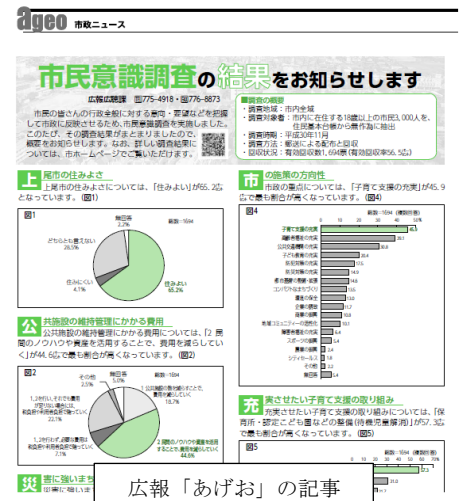
##### 生徒が挙げたトピックから3つのキーワードでグルーピング

一人一枚の用紙に気になったトピックを書き、その下にトピックを表すキーワードを3つ書いた。黒板にその紙を貼って、同じ様なキーワードを集めていくことでグルーピングを行った。

##### 生徒が挙げたキーワードの例

教育・子育て・税金・予算・ごみ・祭り・動物・救急・消防・防災・防犯・自然・環境・健康・医療・福祉・ボランティア・国際交流・観光・歴史・スポーツ

これらのキーワードをもとにゲストティーチャーへの依頼を行い、座談会の講座を決定した。



## 【実践例2】複数の立場のゲストティーチャーによる座談会で、視野を広げる「課題の設定」

### 概要・ねらい

ゲストティーチャーによる授業では、質問時間が設けられるものの講師が説明をする場面が多く見られる。本実践では、座席を車座にして講師を囲んで話し合う座談会の形式で授業を行った。講師にはスライド等の準備が不要であることや説明の時間を設定しないことを事前に伝え、生徒からの質問内容と討議テーマを送付して打ち合わせをした。当日は講座ごとに、生徒の質問を中心に会を展開した。

### 異なる立場の複数講師を同一講座に配置

講師の説明は生徒にとってその社会課題や問題意識に対する模範解答のように認識してしまう可能性がある。複数の立場のゲストティーチャーを同時に同会場に招いて座談会を行うことで、大人の中でも立場によって意見が異なる場合があることを知り、生徒自身も「自分の立場だったら」と自分事として課題について考える機会になった。

### ローテーションで複数講座を受講

生徒は事前のアンケートで興味のある講座を選び、ローテーションをして2講座に参加した。また講座の内容を録画して、当日参加できなかった講座の内容も事後に見られるようにした。

講座	講師
上尾の子育て	・上尾児童館アップーランド館長 ・しらこぼと保育所保育士
上尾の観光・農業	・農業生産法人株式会社ナガホリ職員 ・上尾アップーガイドの会会長 ・上尾市観光協会事務局長
上尾の防災	・平塚地区長 ・上尾市防災士協議会副会長
上尾の祭り と伝統	・上尾夏祭り実行委員・二ツ宮町内会長 ・上尾夏祭り若衆連合会会長・柏座町内会長
上尾の防犯・安全	・平塚地区長 ・行田警察署地域課巡査
上尾の健康・福祉	・あげお愛友の里（福祉施設）職員 ・上尾市健康福祉部 職員
上尾の自然・生物共生	・上尾市自然学習館 職員 ・上尾市環境協議会 副会長
上尾の環境・リサイクル	・西貝塚環境センター次長 ・上尾商工会議所古紙リサイクル協議会会長

### 「上尾の子育て」講座の様子

討議  
テーマ

「上尾の子育てに関する市の取り組み・特色、課題について、それぞれの立場からどのように感じているのか。」

### 生徒からの質問

- ・子供を（安全面・防犯面で）守るために、日頃どんなことを意識していますか。
- ・保護者からの問い合わせにはどんなものが多いですか。
- ・少子高齢化に伴う、施設の変化や影響はあるのですか。職員の人手不足も関係していますか。
- ・保育施設の空きが少ないようですが、市として何か対策をしてくれていることはあるのですか。



### 実際の座談会の内容（一部）

上尾は子育てしやすい環境だと思いますか。



児童館館長

そう思います。他市の状況を聞いても、上尾よりも難しい環境、低予算でやっていることも聞きますし、子育てのために上尾を選んだというお母さんの話も聞きます。わざわざ伊奈や桶川から、上尾の児童館に来てくれるお客さんも結構います。



生徒A



生徒B

市の職員として言いにくい部分もあるのですが、私自身も上尾市に住む母親として、もう少し環境の充実に力をいれてほしいと思う部分もあります。特に慢性的な人手不足で、日中多くのことを同時にしなければいけないのは子供から目を離すことになり、母としても仕事の帰りが遅くなってしまうので改善してほしいです。



保育士

人手不足は、予算が足りないからですか。忙しい仕事なのに待遇が良くなって、なりたい人が全国的に少ないと聞きました。潜在保育士さん（免許を持っている方）は市内にもかなりいるようなのですが。

鋭い質問ですね。実は私の周りにも潜在保育士は何人かいます。やりがいがある仕事だからこそ多くの人に保育士になってほしいです。児童館では人手不足、どうですか。

### 【実践例3】ルーブリック表による学習評価の確認で、今後の活動に見通しをもつ「課題の設定」 概要・ねらい

本実践では、提案書の作成に向けた探究学習の開始前に、学習評価と到達点について生徒と教職員が共通理解をする時間を設けた。探究的な学習活動は中・長期的に行われることが多いが、学習者と授業者がともに評価について十分に理解をしてから探究活動を始めたことで、学習の過程に見通しが立ち、最終的な提案書の到達点がイメージできるようになった。

#### 課題設定の手順



#### 生徒と確認をしたルーブリック表の例

最初の授業で、ルーブリックの内容や文言の意味について生徒が質問をしたり先生と話し合ったりする時間を設けた。また、提案書作成の注意点について記した資料を配布して説明した。

観点/評価	A	B	C
知識・技能	上尾市の現状・社会課題について □市の特徴と課題の多様性が分かる □様々な立場の意見が示している の両面で十分に満足できる	上尾市の現状・社会課題について □市の特徴と課題の多様性が分かる □様々な立場の意見が示している の両面でおおむね満足できる	上尾市の現状・社会課題について □市の特徴と課題の多様性が分かる □様々な立場の意見が示している の両面で十分ではない
思考・判断・表現	提案内容について、 具体性、実現可能性が十分に考えられ、 □必要性、根拠がはっきり示している □解決の方向性がわかりやすい 内容になっている	提案内容について、 具体性、実現可能性があり、 □必要性、根拠が示している □解決の方向性が示している 内容におおむねなっている	提案内容について 具体性、実現可能性が十分ではなく □必要性、根拠がはっきり示している □解決の方向性がわかりやすい 提案になっていない
主体的に学習に取り組む態度	提案をするにあたり、 □地域の発展に生かそうとしている □大人を動かす魅力、アイデアがある ことが十分に読み取れる	提案をするにあたり、 □地域の発展に生かそうとしている □大人を動かす魅力、アイデアがある ことがおおむね読み取れる	提案をするにあたり □地域の発展に生かそうとしている □大人を動かす魅力、アイデアがある ことが読み取れる提案になっていない

#### レポートの過去事例、評価のポイントを提示

どのような提案書が作成されていれば、それぞれの観点項目がAになるのか等について、サンプルや過去の例を具体的に生徒に示した。過去の事例から得るイメージを自分たちの提案書の最終的な到達点と結びつけられるようにした。

#### 本実践の授業後に決定した「子育て」チームのグループテーマ

たんぽぽ班	保育士の現状と子育て環境の充実
めがねざる班	保育園と子育て関連施設のこれから
アマリス班	潜在保育士の実態と保育政策
チンパンジー班	ノーマライゼーションと子供への配慮
ぞうさん班	出産時に負担する費用と合計特殊出生率の関係
ひまわり班	ユニバーサルデザインとバリアフリーの普及計画

#### その後の政策評価で読み込んだ資料の一例

- ・ 第5次上尾市総合計画後期基本計画
- ・ 上尾市子供子育て支援事業計画
- ・ 上尾市一般会計予算、市議会議事録
- ・ 上尾市子供子育て会議録
- ・ 上尾市子供・子育て支援に関するアンケート調査報告書

